地球の未来 日本からの提案Ⅱ
サイエンスアゴラ2012

科学・技術でわかること、わからないこと PartⅡ

平成24年11月10日（土）13:00～14:00

日本科学未来館 7階 イノベーションホール

定員：１００名（入退場自由）

科学・技術に「絶対」はないことは、科学者や技術者にとっては自明のことですが、社会一般に広く浸透しているとは言いがたい状況です。昨年の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故は、科学・技術と社会との関係を改めて問い直す機会となり、残念なことに、我が国の科学・技術と科学者・技術者への信頼を著しく損なうものとなりました。同時に、予想しなかった事態に直面した時に、科学者・技術者が適切に対応し、その行動を通して市民に信頼されるためには、相当の努力を必要とすることも明らかになりました。

では、「科学・技術に絶対はない」という科学リテラシーの基本を社会に定着させ、科学・技術と社会の関係に基づく新しい社会システムを構築していくためには、どうすればよいでしょうか。

本セッションでは、大震災から得られた教訓を踏まえて、社会全体の科学リテラシーを高めるために学術会議として今後何を為すべきかを論じたいと思います。

＜プログラム＞

13:00～13:05　開会挨拶

毛利 衛（日本学術会議連携会員、独立行政法人科学技術振興機構日本科学未来館館長）

13:05～13:25　話題提供１

「食の安全・安心とリテラシー」

唐木 英明（日本学術会議連携会員、倉敷芸術科学大学長）

13:25～13:45　話題提供２

「くすり一錠に込められたサイエンス」

高橋 秀依（帝京大学薬学部教授）

13:45～14:30　パネル討論

パネリスト：毛利 衛（日本学術会議連携会員、独立行政法人科学技術振興機構日本科学未来館館長）

唐木 英明（日本学術会議連携会員、倉敷芸術科学大学長）

高橋 秀依（帝京大学薬学部教授）

竹内 慎一（ＮＨＫ制作局 青少年・教育番組部チーフプロデューサー）

立川 雅司（日本学術会議連携会員、茨城大学農学部教授）

コーディネーター兼パネリスト：

室伏 きみ子（日本学術会議第二部会員、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授）